

下橋中学校  
少しずつ

新井 瑠莉

私のスピーチコンテストでのテーマ・・・

「盛岡の文化をたくさんの人に知ってもらおう。」

私はビクトリアで「文化をたくさん伝えよう！」と  
思っていた。

今回の研修では、ランブリック高校の生徒と話したり、  
ホストファミリーと触れ合ったり、初めての経験を  
たくさんすることができた。しかし、英語が思った  
ように話せない私は会話が途切れてしまったり、うまく  
気持ちが伝わらなかつたりした。その時はいつも、  
英語が話せたらもっと楽しかっただろうに・・・  
と悔しい思いがあった。

私と実友のホストファミリーはとてもにぎやかな優  
しい4人家族+4匹だった。ホストファミリーとの対面  
の日、どんな家族なのか、英語で会話できるかなど、  
たくさんの不安が頭の中を巡っていた。しかし、私達  
が英語を聞き取れなかつたときは、簡単な英語に変  
えて話してくれたり、ゆっくりと話してくれたりした。  
最初はあまりいごで気持ちを伝えることができな  
かつた私達だが、日がたつにつれ英語を話すのが楽し  
くなっていた。と言っても単語を並べることがおかつ  
たが・・・。

私達はいつも夕食をいただくとき「いただきます」  
と「ごちそうさま」を言っていた。その他にも、ホ  
ストファミリーに、「Yes」や「No」の日本語を教  
えてあげた。これも文化の交流になった会話だと思  
う。

13歳のワリスタはバスケットボールの練習、16  
歳のテリアンはバレーボールの試合、という忙しい  
日が続いたが、ホストファザーのシャルダンがジョ  
ークを言って笑わせてくれたり、ホストマザーの  
スーザンは優しく接してくれた。この家族と暮ら  
せて、この優しさ温かさが初のホームステイとい  
う不安をなくし、リラックスして過ごすことが  
できた。

今回の研修では発見したこと、楽しかったこと、  
次につなげたいと思うことなど数えきれないほど  
たくさんの思い出が一週間の中にぎっしり詰ま  
っていた。短いようで長かつた研修。「また行  
きたい!」「また少しづつ文化を伝えていき  
たい!」という思いがわいてきた。お世話にな  
った皆さん本当にありがとう。

下橋中学校

瀬川 康二郎

何かが変わった

僕は、ビクトリア研修に参加するまでの日常の暮  
らしと、今の学校の暮らしでは、何かが変わったよ  
うな気がします。今までの僕は、いつもどこかに  
学校に通うのが飽きてきて、つまらないという思  
いが心のどこかにありました。そんな時、担任の  
先生から、この研修の学校推薦の話しを聞か  
されました。初めにその話しをきいた時はあ  
まり乗り気ではありませんでしたが、親に話した  
ら、「せっかく外国に行けるんだから行きなさい」  
とされたので「それもそうだな」と思い参加  
しました。

事前の研修では、さまざまな活動を通して同じ  
班の人や他の班の人とも話すようになっていき  
ました。

カナダでの一週間は、本当にいろいろな事があり  
ましたがそれも鮮明に覚えています。

特に、ホストファミリーと過ごした4日間が、一  
番心に残っています。

バスガイドさんが「笑顔」で接する事と「あり  
がとう」と言う事が大切だとおしえてくれたの  
を活かして、自分としてはすごく積極的にホ  
ストファミリーと接することができたと思  
います。

ホームステイ先ではおばあちゃんとおこのみ  
焼きを作って「おいしかったよ」と言われたり、  
お母さんにいろいろと家の事を親切に教  
えてもらったりしました。又、お兄さんと「  
大乱闘スマッシュブラザーズDX」という  
ゲームやエアホッケーをしたり、弟さん  
のバンドの練習を見に行ったりと色々な交  
流がありました。もちろんホストファミリー  
との会話については、何とか相手の言  
おうとしている事を、自分の英語知識を  
フル活用して聞きとろうとすれば、少  
しは理解することができたので、一度  
も電子辞書などを使うことなく過  
ごす事ができました。

今は普段の生活に戻ってしまいましたが、  
カナダで学んだ人との接し方を活かし、  
学校の友達や先生、家族などと接する  
ようにしているので、以前よりも少  
し楽しいような気がします。

これからもいろいろな人たちとの出  
会いを大切にしていきたいです。そ  
してこの研修で僕を支えて下さった  
皆さんに心から感謝したいと思  
います。

下橋中学校  
夢の旅

村田 まりな

「海外に行きたい！！。」これが私の小さな夢でした。まだ、10代なのに自分の夢が叶うなんて、正直、信じられませんでした。初めての海外が遠いカナダ・ビクトリアなんて……。たくさんの不安と希望をかかえ旅立ちました。

カナダ滞在中は、時間を忘れてしまうくらい夢のようなひとときでした。ビクトリアは、広大な大地で自然も豊かで、街にはメープルの樹がたち並び、道を歩く先々にかわいらしい花が咲いている、静かできれいな街でした。私はこの一週間で、たくさんの仲間をつくり帰ってこれたと思います。

一緒に行動してきた同じ班の仲間。お世話になったホスト校の担当のリングダ先生、校長先生。たくさんの不安を抱えた私達を温かく、そして笑顔で迎えてくれたホストファミリーのアポット家。お世話してくれたホストブラザーのアンドリューさん、これ以上に言葉では言いきれないほどたくさんの人と色々な出会いがありました。

ブラザーのアンドリューさんは私達をカナダのいろんなお店に連れていってくれました。見る物すべてが私にとって新鮮で、新しく感じられました。アイスホッケーやバレーボールの試合に連れていってくれたりスーパーマーケットで楽しく買い物したり……。

アンドリューさんは日本に留学したことのある方で、日本語を一生懸命覚えようと頑張っていました。その姿を見て、私も今の自分のポキャプタリを最大限に使って伝えようと頑張って話したつもりです。言いたくても言葉がわからなくてスルーしてしまう事や、自信がなくて言えないことが多々あり、今になって後悔している事もあります。この体験からもっと英語もスキルアップし、再び海外でたくさん会話ができるようにしたいです。

研修を終えた今、私の心の中にカナダでたくさんの思い出が虹色のように鮮やかに残っています。カナダの文化を実際に体験し、本場の英語を聞いて過ごした一週間。この一週間で学んだ貴重な体験をこれからの自分に活かしていきたいと思います。

下橋中学校

吉田 千秋

Thank you

初めての海外、これがカナダのビクトリアで本当によかった！！と今とても感じています。たった一週間だったけど、いろいろな人に会い、カナダの文化にふれ、私の中でとても忘れられない一週間でした。

カナダに行くこと決まってから、あっという間だったと思います。もうすぐ会えなくなってしまう仲間と会いカナダに行き私は大きく変わったような気がします。

カナダでのホームステイ。お母さんのスーザン、お父さんのウェイン、お姉さんのリンジーに会い、そこで5日間過ごす事ができた事を、今とても幸せに感じています。

私がカナダに行き気付いたこと、それは「Thank you」の多さです。ジュースを持ってきてもらってありがとう。ドアを開けてもらってありがとう。など、この一週間で何回言ったんだろうよ思っています。私は、ホームステイが始まった1日目、何度も「Sorry」と言っていました。その度にお母さんに言っちゃダメ、と言われていました。「私は英語しかはなせない。あなたたちは日本語と英語を話しているのだからすごいよ。謝ることはないよ。」とお母さんは言ってくれました。これを聞いてから「ごめんなさい」は言わなくなりました。又、知らない人でも道をゆずったり、ドアを開けて待っていてあげると「Thank you」と言う言葉がかえってきてとても嬉しかったです。

日本ではこんな事はほとんどないと思います。日本に帰ってからも「ありがとう」と言っているわたし。私はこれからも、「ありがとう」の言葉を大切にしていきたいと思います。

8月からの事前研修、ビクトリアでの研修を共に過ごしてきた仲間たち。みんなとの出会いもまた、カナダ、ビクトリア研修のおかげだと今、心から思っています。いろいろな出会い 出会いを経験した、2ヶ月間。これは、私の中で、これからの未来にむかっての自信に変わっています。

わたしにとって忘れられない一週間であたえてくださった先生方、そして仲間たちに、心から感謝しています。本当にありがとうございました。

城東中学校  
仲間と共に

渡邊 泰州

「がんばってきなよ」学校の先生、友達、そして家族に送り出され、飛行機と海外を初めて経験し、何もかもが新鮮かんじられた8日間は、あっという間に終わったことがとても信じられない気がする。

そのくらい、今回のこの研修は本当に楽しかった。

8月29日、プラザおでって大会議室にて開かれた説明会と第一回研修会。部屋に入った瞬間の緊張感は今でも忘れられない。それでも、どんどん研修の回数をこなしていくうちに、自分の班の人とはなんとかしゃべることができた。もちろん自分の班だけであり、他の班の人とは話せなかった。プレゼンのリハーサル、市長、協会理事長へのあいさつも終わり、さあ、出発と思った前日、なんと同じ班の唯一の男子、せい君と本田青督君が行けない事を知った。ショックだった。「大丈夫かなあ」と思いながらいよいよ当日。新幹線からの景色を眺めながら成田へ。飛行機に感動している僕に隣の昆喬紀君が話しかけてくれた。どんどん話しがふくらんで、みんなとワイワイし、心配は消えた。

やはり、自分からどんどん話をふくらませる事はとても大事で、カナダに着いてからからもそれは変わらなかつたと思う。ステイ先のホストファミリーとの会話や(まあ昆君に英語はだいたい任せていたが・・・)ランブリック高校でペアを組んだジェームスとも、少ない僕の英語力をふりしぼり、話をふくらませ、彼が最後の話で「泰州は日本で唯一の友達だ」とまで言ってくれた時は、本当にうれしくてたまらなかつた。

ブツチャートガーデンの美しい草花を楽しく見れたのも、ショッピングをワイワイ回れたのも、仲間が存在があったからだ。パスポートを無くし、バンクーバーの市内見学に行けなくて困っているとき、不安定な僕を支えてくれたのは他の誰でもなく仲間、そしてバスガイドさんと先生方だ。特に伊藤さんにはずっとつきっきりで緊急パスポート再発行の手続をしてくれた。本当に「感謝、感謝、感謝」だった。

もうカナダのあの素晴らしい名所や景観を見れないのは残念だが、この研修が、自分の人生に必ず役立つと信じている。そして、また同じ仲間と、カナダの仲間と会いに行きたい。パスポートを絶対なくさずに。

城東中学校  
ありがとう

對馬 朱理

私がこの研修に参加を希望したのは、ただひたすらに「外国へ行きたい」という、前からの強い思いがあったからだけである。そんなわけで、向こう見ずに行動をおこしてしまった私は正直不安だらけだった。私は何をしても行動が遅いし、優柔不断だし、人見知りだし。他の団員達と仲良くなれるかとか、盛岡の代表、日本の中学生の代表として、はたしてそれは自分でよかったのだろうか・・・などなど。

しかし、事前研修を重ねていくうちに、不安もだんだん消えていき、みんなと一緒にいれる事にうれしいと思うようになっていった。

研修初日。長い間新幹線や飛行機に座りっぱなしの上、バンクーバー空港でデジカメを失くすわ、時差もあるわと、1日がとても長く感じた。

まず驚いたのが食べ物のこと。量は多いし味が濃い。初日から胃がもたれてしまって、あまり食べられなかつたのが残念だった。又、水も日本とは違って硬水で、何回もお腹が痛くなってつらかつた。

事前研修でがんばってきたプレゼンはなんとか無事にやりとげることができた。思っていたよりクイズに正解する人が多く景品が足りず、最終的にジャンケンをする事になったが、それでもランブリック高校の生徒たちは楽しんでくれたようで、とても嬉しかつた。

又、ランブリック高校では、自分の英語力のなさを痛感しました。自分に話しかけてくれる優しい人達の質問にどう答えていいのかわからず何度も聞き直したり、言い直したりしてしまつた。けれども相手はいやな顔せず、何度も話してくれたり、私のあやふやな英語を理解しようとしてくれたことに、私はとても感動してしまつた。

今回のピクトリア研修で、たくさんお世話になつたホストファミリーをはじめとするカナダの人達の優しさに、たくさん触れることができた。

食など、文化が違つても、やっぱり相手を思いやる気持ちは、一緒なんだなと感じた。

いつまでも、感謝の気持ちを忘れずにこの経験を、将来に活かしていけたらいいなと思う。

みんな、いろいろとありがとうね！！

下小路中学校  
「初めてだらけ」

伊藤 良溪

とても緊張して話した校長先生との面談から、事前研修を経て、初めての海外研修。初めての空港から始まり、初めての飛行機に初めてのホームステイ。何もかもが「初めて」で、最初は「本当に一週間も海外で過ごせるだろうか。」という不安が僕の中に取りました。しかし、カナダに着くと、そんな不安はすーっとどこかに消え、見るものすべてが素晴らしいものに見えてきました道路には街路樹がたち並び、その横には広い歩道にとてもきれいな家……。気付けば僕は「すげー！」を何回も言っていました。

ホームステイ先では、ホストファミリー全員が温かく接してくれて、とてもうれしかったです。初日はジーク君とWi iスポーツと一緒に遊んだのもすごくいい思い出です。英語力の乏しい僕に対しても、通じるようになるまで話してくれたり、I Phoneで訳してくれることもありました。本当に困ることもあったと思うけど、「問題ないよ」と言ってくれた、ホストマザーやホストファザーにはとても感謝しているし、ジーク君やタイガーさん、コール君にはとてもお世話になりました。

最初は、違う班ということもあってあまり接点がなかった昇君とホームステイ先では同じになりました。すぐに仲良くなって、英語の面ではわからない文を訳してくれたり、どのように話せばよいか教えてくれたりとすごく助けてくれました。

「Yes」や「No thanks」「I play Handball」などの簡単な文しか話せなかったけど、すごく楽しくて、内容の濃いホームステイだったと思います。

この研修では、たくさんの事を学び、経験する事ができたので、これからに活かしていきたいです。そして、僕がこのビクトリア研修に参加できたのは、今まで支えてくれた家族、助けてくださった先生方を始めとするたくさんの方々のおかげです。一年生の僕を受け入れてくれた団員の皆さん、僕達を引率してくださった先生方、事前、事後研修にてアドバイスをくださった尾中先生、そしてこの研修を企画してくださった協会の方々にはとても感謝しています。ほんとうにありがとうございました。

下小路中学校

宮澤 顕子

ごめんなさい、ありがとう

「ありがとう」って万国共通の言葉だと思う。「ごめんなさい」も同じ。この2つの言葉のおかげで私は、8日間すごしてきたのだろうな。

1番そう思ったのは、最初のホームステイ先での夜だった。4日間ありがとうって伝えたくて、でも言葉ではうまく伝えられないから、まりなと一緒に好み焼きを作った。おいしいって思ってもらいたかったから妥協しないで一生懸命作った。

でも、形が崩れてしまった。食べてしまえば同じだけど、感謝の気持ちを伝えたくて作ったものだから、味も見た目も完璧にしたかった。

ホストマザーもブラザーも「大丈夫」「おいしそうだね」と言ってくれた。それがとても優しすぎて逆に悲しくなった。ふと思ったとき、私は自然に「I'm sorry」と言っていた。せつかくの楽しい夕食の雰囲気壊したことと、くやしさを涙が出てくる。

「オイシイ」とブラザーが言ってくれる。マザーもおかわりしてくれた。私は「Thank you」とその言葉しか出てこなかった。

それでもまだ落ち込んでる私たちを励ますために、ブラザーは変な唄を歌ってくれた。すごくおもしろかった。でもその優しさが伝わって泣きたくなくなった。泣くのをごらえて笑うから、変な笑顔になった。もっと良い笑顔を見せたかった。上手に笑えなくて「ごめんなさい」

翌日はお別れの日。たった4日間しか一緒にいないのに、私を本当の娘、妹として見てくれる家族に出会えてよかった。

出会ってくれてありがとう。優しくしてくれてありがとう。

何回言っても足りない。きりが無いけどずっとありがとうって言いたい。そう思うくらい、ホストファミリーに感謝している

私がこのビクトリア研修で学びとったことは、「感謝の気持ちと謝るということ、どこへ行っても1番大切なこと」という事だ。

この研修に参加でき、すごく幸せだった。みんな、ありがとう。

土淵中学校  
出会い

佐藤 萌

今回のビクトリア研修は、わたしを大きく成長させてくれたと思います。わたしは海外に行ったことがありませんでした。だから、わたしにとっては何もかもが初めての経験でした。

私がこの研修で一番楽しみにしていたのはホームステイです。日本とカナダの生活の違いを発見することができました。一番に、感じた大きな違いは「食事」です。朝食はマフィンとジュースという普段のわたしにとってはありえない食事に驚きました。

日本のように、主食・主菜・副菜が決まっているわけではありません。そこが日本の食事との大きな違いでした。そして、一番苦労したのが日常会話です。ホストマザーが話していることをよく理解できず、友達に助けられてばかりでした。自分に自信が持てず、なかなか積極的にはなしかけられなくて、悔しい思いをしました。だから、もっと英会話の力を身につけて、また海外に行きたいと思います。

今回の研修の目的は、姉妹都市ビクトリアとの交流です。この研修のおかげでたくさんの人と出会いました。まず、ホストマザーです。なかなか英語を聞きとれない私に、ゆっくり話してくれました。そしていろんな所に電話をして、わたしたちがおみやげを買う時間を忙しい中であってくれました。ホームステイの最後の夜には、ハロウィンパーティーも開いてくれました。ホストマザーのために一生懸命歌を歌ったときも喜んでくれました。やさしいホストマザーに出会えてよかったです。

そしてここにいる研修生のみんなのおかげです。最初はなかなかなじめなかったけれど、一週間の研修で全員と仲良くなれました。改めて仲間の大切さを感じました。この出会いを大切にしていきたいです。事前研修で練習をがんばってきたプレゼンテーションも成功しました。1回目は緊張して堂々と発表できなかったけれど、2回目はちゃんと伝わって、みんなが楽しんでくれました。

このビクトリア研修は、たくさんの人と出会いたくさんの人と交流することができました。盛岡市とビクトリア市の交流が、このまま10年、20年続いてほしいと思います。

黒石野中学校  
気持ちで繋がる

川村 昇

とても楽しかった一週間でした。今回学んだことは、きっと将来や、学校でも活かせると思います。

「カナダ・ビクトリア研修スピーチコンテスト」募集中ですよ、そう言われたとき、興味半分僕らはスピーチコンテスト挑戦を決意していました。

一次試験を合格し、二次試験も何とか合格。ついにカナダに行けるんだ。その時も半分夢見心地でした。

興味半分で挑戦して合格したのはいいけど、本当に英語だけの生活をしていけるのだろうか。そもそも自分にそんな力があるのだろうか。出国間近でそんなことばかり考えていました。

どんなに迷っていても、ついに出発の日がきました。一度きめたことだから、と腹を据えてカナダへと旅立ちました。

不安でいっぱいだった僕を迎えてくれたのは、カナダの新鮮な空気でした。景色もよかったです。でも、日本語が通じない、そんな事ばかり気にしていました。

2日間の移動が終わり、ついにホストファミリーとの対面の瞬間、タイガーとコールが僕達を笑顔で迎えてくれて、車で案内してくれました。

今思うと、そんな2人と、ホストマザーの温かい笑顔に後押しされて、僕の中で、何か話しがしたい。という思いが生まれてきたのかもしれない。

一言話すと、返事がきて、返して、分らなくても、「That's OK!」と笑顔でみんなが許してくれました。この時、僕は、コミュニケーションに必要なものは、言葉じゃなく、心なんじゃないかなあ……と思いました。

どんなに困って、わからないことがあっても言う側が一生懸命に伝えようとする、聞く側が一生懸命に感じとろうとすれば、たとえ会話で内容が詳しく伝わらなくても、コミュニケーションで成り立っているんじゃないかと思います。

ホストファミリーのマザー、ファーザー、コール、タイガー、ジーク、プリンジュ、本当にありがとう。

この研修で他にいろいろお世話になった様々な人とも、心で繋がれたらいいなと思います。

白百合学園中学校  
かけがえのないもの

いつか、海外に行って、思い切り英語を話したい。わたしの中でずっと思い続けてきた夢が、叶った時の喜びは、一言では表せないくらい大きなものだった。

カナダの空気を吸って、美しい街並みが目に飛び込んできたときの感動は、今でも忘れられない。全てが新鮮で、バスから景色を眺めるだけでも楽しかった。

私が一番心配していた市長表敬挨拶の日。緊張しながらも進み出て、はっきりと、目を見て話すよう心がけた。声が震えてしまったけれど、市長さんを始めとするたくさんの方々にはほめてもらい、時間をかけて原稿を練り直して本当に良かったと思った。

ホストファミリーは、とても良い人達だった。ホストマザーのChndiは、私達研修生のために、ビーチでの散歩、パレー観戦、ショッピングなどに連れて行ってきて、楽しい時間をたくさん作ってくれた。

いただいたお料理も全部がおいしくて、食事の時間はいつも笑顔が絶えなかった。また、家や学校のことを、萌さんと私が理解するまでゆっくりと何度も説明してくれた。学校でも、一緒に授業を回ってくれたAllyssaや彼女の友達も、私や他の研修生にとってもフレンドリーに接してくれた。

私は、この研修を通して、感謝する気持ちと笑顔の偉大さを改めて知った。

「ありがとう」の気持ちは声のトーンや表情で、何倍も強く伝えることができる。それに笑顔が加われば、言葉の壁はあっても、感謝の思いに壁はない。研修中、様々な人とコミュニケーションをとれる素晴らしさを、何度も思ったことだろう。ホストファミリーとのお別れの時、その楽しさをもっとかんじていたいという思いと、感謝の思いが溢れて、涙が止まらなかった。またここに来たときは、もっと英語の話せる私になりたい。そう強く思った。

泣きたくなるくらい英語力の無さを痛感したこともあった。でも、思いを伝えられた時の嬉しさはそれの何倍も大きかった。

研修で培った仲間との絆は私の一生の宝物だ。このかけがえのない7日間は、世界的な視野と、私が真の国際人になるための、大きな一歩をくれた。

小笠原 弥優

飯岡中学校  
感謝の気持ちを忘れずに

私は、この研修に参加する時、少し不だった。英語は得意ではなかったし、ホームステイ先でコミュニケーションをとれるか心配だったからだ。

しかし、実際、行ってみると、ホストファミリーは優しく迎えてくれ、そんな不安は吹っ飛んだ。でも、コミュニケーションには限界があり、何を話しているかわからなかったりした。ホストファミリーは「いいよ、いいよ」と言ってくれたが、申し訳ない気持ちと英語を話せない悔しさでいっぱいだった。

ホームステイ2日目からは、ランブリック高校にホームシスターと一緒にいった。ランブリック高校には世界各国からの留学生が通っていた。

学校での初日はドラマの授業を受けた。複雑ゲームをしたり、とっても楽しかった。最後に、演技を見せてくれたり、パフォーマンスをしてくれて、楽しませてもらった。

学校での2日目は朝から登山に行った。登る前は寒かったのに、頂上に着くと汗をかいていて自分でもびっくりするほど暑かった。霧がかかっている、頂上からの景色は残念ながら観られなかった。

学校に戻り、今度はプレゼンテーションをした。私の班は、忍者の格好をして日本の遊びをやった。思っていたより盛り上がり自分までテンションが上がった。学校での3日目、最終日では1日中、普段通っている生徒と変わらない高校生活をした。初めてのことがたくさんで私にとってとても新鮮だった。

ホストファミリーとの会話では、初日より英語がわかるようになって、もっとここに居たいと思った。感謝の気持ちを込めて、ホストファミリーのために夕食におこのみ焼きを作った。ホストファミリーのみんなは「とてもおいしい」と言ってくれた。

私は、このホームステイでたくさんのことを学んだ。なんでも言葉が必要だと思っていたけれど、時には気持ちがあればいい時だってある。でも、もっと話せていればもっと楽しかったらと思う。自分は努力することは苦手だったけど、これからは努力し、もっと英語を話せるようになってまた行きたいと思った。

今回この研修にあり、お世話になった全ての人に感謝の気持ちでいっぱい。「ありがとうございました」

鈴木 実友

北陵中学校  
新たな夢へ

岩崎 朱里

「また必ずカナダに行きたい！もっと英語を学びたい！」一週間の研修を終えて私は今、このような気持ちでいます。ホームステイやランブリック高校での授業など、私にとって全てが初めての体験で、とても新鮮でした。

日本を離れて9時間・・・気がつくところではもう、ずっと憧れていたカナダでした。最初はあまり実感がありませんでしたが、街中に貼られた国旗や、空気がとても澄んでいて「やっとこの地に着くことができました！」と、とてもうれしく感じました。

ホストファミリーとの初対面の日、私は朝からうれしさと不安が入り交じった気持ちになっていました。けれど、Ball一家が温かく迎えてくださり、すごく安心しました。い歳のJoseph君も笑顔で迎えてくれて、本当にうれしかったです。

4日間の中でお母さんのMelodieさんと一緒にお好み焼きを作ったことは良い思い出になりました。

私が体調を崩してしまった時も、優しく声をかけてくださり、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

ランブリック高校では、毎日楽しい発見ばかりで、とても楽しかったです。研修前から、チームのメンバーと練習してきたプレゼンも成功し、私も楽しくやることができました。

一緒に授業を受けたNatalieは、たくさんのことを教えてくれました。しかし、私は戸惑うばかりで「もっと英語がわかれば、質問できたのに」と心の中で繰り返していました。このことを忘れずに、これから先、もっと英語を学んでいけたらいいです。

ビクトリア出発の朝、私は泣きそうになってしまいましたが、ホストファーザーとマザーが「いつでも帰ってきて！」と言ってくれてすごく嬉しくなりました。

この一週間は、私の人生の中で、一番と言えるくらい充実していたと思います。いつでも挑戦してみるという気持ちを持ち続けたいです。そして、カナダで出会った多くの人や、共に過ごした団員のみんなにありがとうと言いたいです。

岩手大学教育学部附属中学校  
Chance

昆 喬紀

僕は第1回の研修に参加した時メンバーのみんながまじめそうに見えました。このメンバーと馴染むことができるか不安でした。しかし、研修を重ねることによっていろんな人と打ち解け合う事ができ、毎週土曜日の研修が待ち遠しくなりました。事前研修を通し、プレゼンの準備等をしているうちにあっという間にカナダへ出発する時がやってきました。

出発の朝、本当にカナダに行くんだと思うと朝からハイテンションでした。飛行機の中で何度も「早くつかないかなあー」と思いながら、何度も時計をみている自分がいました。

カナダに無事つきました。1日目は雨が降っていましたが、すぐに止まりました。その後、バンクーバーが僕たちを歓迎しているかのような、きれいな虹が出ました。見る物全てが新鮮で、今思い返しても1つ1つの光景が頭にやきついていきます。ホテルに着きテレビをつけました。当たり前ですが、全て英語で何か不思議な気分でした。2日目の朝、僕の日課であるランニングをしました。朝の7時なのにとっても真っ暗でしたが、日本で走った時とは別の空気を楽しみました。朝食を済ませ、ビクトリア市内観光の後、いよいよホストファミリーとの対面。どんな人かとドキドキしていると、ホストファミリーのフィリップさんがむかえにきてくれました。自宅は、学校から車で5分弱くらいの所で大きな立派な家でした。娘さんが2人いて、シスターはいつも笑顔を絶やさず、僕に優しくしてくれました。一番印象的だったのは、2人でバレーボールをした事です。もっと話したいと思った時にはもうお別れの日が近づいてきていました。ホストファミリーとお別れの時、一週間があっという間で、ファミリーと過ごした日々が走馬灯のように浮かんできました。

そしてとうとう帰国の日。日本に帰ると思うと涙が出るくらい悲しかったです。この研修では日々、勉強になることばかりで、カナダという国を体全体で感じました。人生という字は「人」と「生む」という字を書きます。僕は、この研修でたくさんの人と出会い、経験を生んだと思っています。人と会う為の地図も無いのに、たくさんの方にめぐりあえた奇跡を感謝したいです。お世話になった皆さん、ありがとうございました。

海外研修の引率。私にとってこの仕事は3回目となる。いつも接している自分の学校の生徒ではない、他校の生徒を連れて行く、しかも海外。これはかなりの緊張感を伴う。しかし、海外研修の引率は海外旅行では味わえない醍醐味がある。それは、ホームステイである。現地の人と直接触れ合うことができ、その国の生活習慣や考え方を知り、体験することができる。私はホームステイが大好きである。

私は盛岡国際交流協会の伊藤さんと共にトムさん一家にお世話になった。トムさんは訪問校であるランブリック・パーク高校の体育の先生である。奥さんのリンさん、8歳の息子のコーナ、の3人暮らし。(他に家を離れて暮らしている21歳の娘と6月からオーストラリアに留学している18歳の娘の5人家族)私の息子も9歳で、同じ年頃の子供が日常をどのように過ごしているのか興味が沸いた。

ホームステイの初日の夜、コーナ君のアイスホッケーの練習に一緒に行くことになった。日本でいうスポーツ少年団のようなものなのだろう。1年中使うことのできるスケートリンクがあり、いろいろなチームが練習をしているようである。スケートリンクの周りには観覧席があり、そこで親たちは練習の様子を見守るのである。しかし、この観覧席はものすごく寒い。そこで約1時間、我が子が練習している様子をじっと見ているのである。あとから、トムさんのご両親も孫の練習を見にやってきた。私は、思わずおかしくなった。私も、我が子の水泳の練習を1時間ただじっと見ている。日本もカナダも同じだと思った。

ホームステイ最後の日の夜、コーナ君が食卓で宿題をしていた。どんなものをやっているのだろうと思って覗いて見ると、Libraryの宿題で、いくつかの質問に答えるものだった。

その1番始めの質問が、「家に帰ってきて1番始めにやることは？」であった。それにコーナ君は「ニンテンドーをやる」と答えていた。それを見た私はふと我が子の顔が浮かんだ。

カナダの人々の思い、人としての本質は私たち日本人と何も変わらないのだと感じた。ビクトリアはちょうど紅葉が美しい季節。今回この研修に参加する機会を与えてくださった方々に感謝したい。

今年度で16回を迎えたビクトリア市研修も無事終了しました。

8月29日の第1回目の事前研修ではじめて今回の研修のメンバーが顔を会わせました。そのときの研修生のみなさんの表情にはたくさんの希望と同時に少しの不安の表情がありました。「本当に最後まで研修をやり遂げられるだろうか...」「ホームステイできちんとコミュニケーションができるだろうか」という心の声が聞こえてくるようでした。

期待と不安が交錯した事前研修を経て出発したビクトリア市での約1週間の研修。みなさんは短いか感じましたか、それとも長いか感じましたか？どちらにしても研修中に何か思うこと、感じるがあったはず。思うように英語でコミュニケーションがとれずに悔しい思いをした人、海外留学への決意を固めた人、また、家族と離れてみて改めて家族の有難さを感じた人もいます。研修報告会で「日本と違う/同じカナダ」をテーマにしたそれぞれスピーチでは、ビクトリア市研修を通じてみなさんが感じたこと、気が付いたことを聞いていて、よくぞこのようなことに気が付いた！と思うほどの様々な意見が出ていました。

私にとっては、車椅子の人が路線バスに気軽に乗り込む様子やシニアカーが普通に走っているビクトリア市の風景やあまりにも違う学校生活を直接体験して、日本とカナダの社会システムの違いとその歴史的、文化的な背景を考えさせられる研修でした。また、事後研修ではみなさんとの話し合いの中で、自分の視野の狭さに気づき、こんなものの見方もあるということにも気付かされました。

研修を終えたみなさんの顔を見ていると、研修の最初の不安げで少し頼りなさげな表情からとても引き締まった表情に変わったのを感じます。この研修でみなさんが経験し、感じ取ったことは普段の学生生活では得ることができないものだと思います。この研修を「楽しかった」という感想だけで終わりにしてしまうのではなく、これからの生活に活かして欲しいと思います。この貴重な経験を自分なりに消化して自分のものにするかは、みなさん次第です。

最後にこの研修に協力してくださった全ての関係者の皆様、ありがとうございました。そして、参加したみなさんお疲れ様でした。



反省点も多々ありますが、とにかく無事に終わってほっとしています。この研修が生徒のこれからの人生の、何かきっかけのようなものになってくれたらと思います。

研修始めの生徒の写真を見ると、今とでは態度に随分違いがみられます。現地で、言葉が通じなくても家族や友人が出来たこと、言葉が出てこなくて悔しい思いをしたこと、周りの友人とは違う経験をしてきたこと、全てが身となり自信となって表れているのかなと思いました。

このような経験をすると、新聞でも今まで目にも留めなかったカナダの記事が目が留まるようになります。1年前までは自分とは関係ないと思って素通りしていた「ホストファミリー〜」という文字も、街なかで見かけたら、きっと立ち止まって見るでしょう。それによって、今まで興味のなかったことに興味がわく。考える対象が広がる。みんながこれから沢山経験していくそういった「きっかけ」の一つにこの研修も入ることが出来たら嬉しいです。

今後は、今まで飛ばして見ていた事柄にも興味を持ち、立ち止まって考え、人と違う事もどんどん行動していってもらえたらなあと思います。「この研修は有意義でした」で終わらせず、何かをしたいのに分からない時は声に出して欲しいし、自分が出る、「この経験を活かす」方法を模索して欲しいです。また同時に私達も、今回生徒が培った感覚を養い、活用できる場を提供するよう努めなければいけないと改めて思いました。

生徒の感想にも多く見られましたが、私も現地の方々にとっても助けられたと感じています。ホストファミリーのトムやリム、ランブリックのリンダ先生、ツアーガイドの伊藤さん、市役所の方々やビクトリアー盛岡の交流活動に尽力くださっているビルさんやパーバラさん。感謝の気持ちで終わらせず、これからの交流活動のお手伝いをする事で恩返しをしたいです。

個人的には、今まで中学生という人々と触れ合う機会がなかったため、当初は戸惑ってばかりでしたが、今はこの年にこの生徒達と研修に行けて本当によかったと思っています。研修参加の機会を下さった田口事務局長、関係者の方々、一緒に研修に行った皆に感謝しています。ありがとうございました。

第16回ビクトリア市研修には市内中学校4校から推薦された8名と「中学校による国際交流コンテスト」で選考された7名、そして財団法人盛岡国際交流協会事務局2名、中学校教諭2名の計19名で参加する予定でした。しかし最終的には合計18名で参加することになりました。我々は団員が決定された8月末から出発までの約2ヶ月間に、2回の旅行説明会と4回の事前研修を実施し、ランブリック・パーク・セカンダリー・スクールでの口頭発表に向け準備してきました。その準備に最善を尽くしたにも関わらず19人全員で参加することができなかったのは、団長として痛恨の極みでありました。特に誰よりも本人が無念であったことを考えると、かける言葉が見つからず、結局はその1名の団員に何も声をかけることなく出発してしまったのは団長として失格であったと思います。

研修を振り返りますと、他の統導者はもちろんのこと、団員である中学生18名に助けられた1週間であったと、無事に帰ることができた喜びで一杯です。団員に万が一のことがあったら生きては帰れないぐらいの悲愴な決意を胸に過ごしました。過去に何度か海外経験はありますが、カナダは初めてでしたし、事前に視察もしていないので不安が募る一方でしたが、ホストファミリーのリンダさんに研修全体を通じてよくして頂き、何とか職責を果たすことができたこと確信しています。事務局の指導を仰ぐとはいえ、現場の最高責任者としての統導は困難な仕事であり、その重責を身にしてみえた1週間でした。特に今年はインフルエンザが猛威をふるっていたため、旅行中に感染した団員がいなかったのは本当に幸運でした。団員の誰かが感染した場合のマニュアル等を事務局に用意して頂き、絶えず田口課長・赤坂第15回中学生ビクトリア市研修団長に励まして頂いたことに改めて感謝する次第です。

唯一悔やまれるのは、ビクトリア市市長の Dean Fortin 氏から「後で昼食をとりましょう。」と言われていたにも関わらず、教諭であるがためにランブリック・パーク・セカンダリー・スクールに生徒と同行し、発表の練習をしたことです。市長と会食するという千載一遇の機会を逃したことは本当に残念でした。市長に大変失礼であったと反省する次第です。

最後に今回の研修にあたり、ビクトリア市長の Dean Fortin 氏をはじめとする関係者の皆様、盛岡市教育委員会・財団法人盛岡国際交流協会の関係者の皆様、研修アドバイザーの尾中夏美先生、各中学校の先生方、そして何より研修に参加した団員の中学生の皆さん、盛岡市立巻堀中学校の樋口恵先生、事務局の高橋悦子先生、伊藤たみ子先生に感謝の意を表し、挨拶にかえさせていただきます。